

第1回 大磯町子ども・子育て会議 会議録

1. 日 時 令和元年8月22日（木）
開会時間 午後3時00分
閉会時間 午後4時30分
2. 場 所 大磯町役場本庁舎4階第1会議室

3. 出席者

【委 員】

和 田 久美子 会長
山 田 雅 井 副会長
仲手川 千 景 委員
小 磯 信 一 委員
藤 田 左知子 委員
浅 野 令 子 委員
(宮崎晃子委員代理)
依 田 勝 也 委員
池 田 明 美 委員
鈴 木 綾 子 委員
牛 見 真由子 委員
楠 田 碧 委員

中 崎 久 雄 大磯町長

【事務局】

佐 野 慎 治 町民福祉部長
山 口 信 彦 子育て支援課長
秋 本 篤 史 子育て支援係長
田 中 恵 子 保育園・幼稚園係長
露 木 紗 恵 子育て支援係主事
木 村 美 樹 子育て支援総合センター主査

【記 録】

山 川 鈴 音 (株)サーベイリサーチセンター

(欠席者)

蓮 沼 恵 利 委員
秋 山 実 委員
柳 枝 洋 子 委員

4. 傍聴者 3名

5. 配布資料

次第・委員名簿

- 【資料1】大磯町子ども笑顔かがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～進行管理書《30年度》(案)
- 【資料2】大磯町子ども笑顔かがやきプラン 新規事業等の進捗状況について
- 【資料3】第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン（子ども・子育て支援事業計画）の策定について
- 【資料4】第2期大磯町子どもかがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～の内容
- 【当日配布資料】「第2期大磯町子どもかがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～」について 諮問書写し

6. 報告事項

7. 議 題

- (1) 大磯町子ども笑顔かがやきプラン進捗状況の点検・評価（平成30年度）について
- (2) 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン（子ども・子育て支援事業計画）の策定について
- (3) その他

1 開会

会 長) これより、令和元年度第1回大磯町子ども・子育て会議を開催いたします。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。この会議は、大磯町審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、会議は原則公開となっております。当会議につきましても公開対象でありますので、一般公開されますのでご了承ください。

本日、現在、会議を傍聴したいという方が3名来られています。現在お待ちの傍聴者または会議途中からの傍聴者の入場を許可してよろしいでしょうか。

委 員) 異議なし。

会 長) では傍聴人の方の入場をお願いいたします。

(傍聴者入室)

では、次第に沿って進行していきたいと思います。次第の2及び3について、事務局よりお願いいたします。

事務局) 事務局より説明いたします。今年度は「第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～」に対して 町長から会長並びに委員の皆様へ諮問させていただきご意見を賜りたいと思っております。これまでも委員の皆様には様々な意見をいただきましたが、今回は、これまで委員の皆様にご審議いただいた内容や、今後予定しております町民の皆様からいただいたパブリックコメントの意見を反映させまして、最終的に第2期となる「大磯町子ども笑顔かがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～」の策定に向け取り組ませていただきたいと存じます。本日は町長にも来ていただき、本会議に対して諮問させていただきます。

それでは町長より諮問、続いて次第の3、町長よりあいさつをさせていただきます。

2 諮問

町長より和田会長へ「第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～」について諮問

3 町長あいさつ

事務局) それでは、中崎町長よりごあいさつをお願いいたします。

町 長) では、ただ今諮問させていただきましたが、ごあいさつ申し上げます。

本日は、大磯町の子ども・子育て会議にお集まりいただき非常にありがとうございます。さて、平成26年度において、この大磯町子ども・子育て会議の委員の皆様にも何度かご審議いただきまして策定した、「大磯町子ども笑顔かがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～」も、令和元年度末で第1期の計画期間が終了となります。この計画に基づきまして、町では様々な子育て支援の取り組みを総合的に進めることができました。

例えば、保育の量また質を確保するため小規模保育施設の開設、2園の認定こども園の開設、病後児保育の実施を進めてまいりました。さらに、全国初となる朝の子ども居場所づくり事業を始め、学童保育と放課後子ども教室の一体的な連携を実施し、総合的な放課

後対策事業を展開しております。この他にも、子どもの発達状況を問診で確認する5歳児検診、また、県下初となる町立幼稚園での満3歳児保育など、子どもの健全発育のための事業を展開いたしました。なお、仮称ではありますが東部地区子育て支援センターとして整備してまいりました東部地区の地域の子育て支援センターは、名称を「大磯町石坂卷子記念子育て支援センター」とし、いよいよ開所するという段階に進んでおります。委員の皆様には、町民の生活実態や多様化する利用者ニーズを把握するため、平成30年度に実施いたしました大磯町子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書などの資料や、幼児教育・保育の無償化など、社会的な変化を踏まえまして、これから先の子育てをしていく保護者の視点からご意見をいただきたいと思います。そして、引き続き大磯町で子育てをしたい、子どもを育てて良かったと思っていただける内容を盛り込んだ第2期の計画策定に向けまして、今日、ご審議いただきたく、本日諮問いたしましたものであります。どうかご支援、ご協力を賜り、将来の子どもたちの増える町にさせていただきたいと、このように考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局) それでは、町長は他の公務の都合により、こちらで退席をさせていただきます。

《資料説明》

事務局より、「第2期大磯町子どもかがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～」について（諮問）」写しを配付（説明省略）

4 議題

《資料説明》

(1) 大磯町子ども笑顔かがやきプランの進捗状況の点検・評価（平成30年度）について

- ・大磯町子ども笑顔かがやきプラン進行管理書《平成30年度》（案）【資料1】
- ・大磯町子ども笑顔かがやきプラン新規事業等の進捗状況について【資料2】

（説明省略）

《質疑応答》

会 長) ただ今のご説明の内容について、ご意見やご質問があれば挙手の上ご発言願いたい。

委 員) 資料2の1番に公立幼稚園の統廃合と書いてあるが、7番で認定こども園が1園増えている。これは公立幼稚園を廃止するのどう認識すればいいのか。

事務局) ここでいう公立幼稚園は国府幼稚園とたかとり幼稚園で、国府地区に2園あったので、こちらの統廃合という中で、国府幼稚園を閉園してたかとり幼稚園に統合というかたちで、国府幼稚園の敷地に私立の認定こども園を誘致するという計画に基づいて実施したものである。

会 長) 他にご意見、ご質問はないか。

委 員) 資料1で細かいことを4点ほどお伺いしたい。15ページ、一番最初のところの平成30年度の実績で、ファミリー教室を目標で年3回開催となっているが、30年度実績のところは2回になっていて、例年3回やられているようだが、これは予定していたできなかったのか、それとも何か理由があって2回に減らしてしまったのか、または、その分他が増えたのか、何か理由があったら教えていただきたい。

2つ目に、次の17ページ、平成30年度の実績の、いのちのはなし事業というところで、過去を見ると平成28年度が小学校、中学校両方やられているようだが、平成30年

度は小学校だけしかやられていないようで、中学校はどうしてやらなかったのか。

3つ目に、73 ページ、平成 30 年度の実績のところ町立幼稚園試行的に 3 歳児保育を実施とあるが、この試行はいつまでなのかということと、他の幼稚園の実績は次男が通っていて何となくわかるが、大磯幼稚園の利用人数というか、定員いっぱいまでなのかどうか、もし資料があればお伺いしたい。なぜお伺いしたいかというと、周りに聞くとすごく人気という話をよく聞く。我が家も来年対象になる長女がいるが、通っている周りの人に聞くと、去年も今年も 8 月生まれぐらいのお子さんと定員いっぱいになってしまって、満 3 歳児なので生まれ月順に入れるようだが、そうすると我が家の子は 11 月生まれなので、空き待ちをしてもまだ入れる可能性がないというような話を聞いて、来年度以降どう変わっていくのか伺いたいと思っている。

最後に 76 ページ、子育てコンシェルジュ 3 箇所配置とあって、いつも気になっているが、具体的にどこなのかなと。支援センターと東部つどいの広場なのかなというのとはなんとなくわかるが、あともう 1 つがどこかお伺いしたい。

事務局) では順番に、15 ページ、単純な記載ミスだと思う。第 2 回しかないのでは、3 か月に 1 回開催予定と考えていただきたい。

それと、17 ページのいのちのはなし事業について、なぜ中学校で廃止したのかというところだが、小学校でいのちのはなし事業を行ってきたので、その事業を受けた小学生が中学生になってきているため見直しを図らせていただいた。内容的にも小学生でもわかるような内容に変更している。

事務局) 次に、73 ページの満 3 歳児保育のところだが、こちらは試行実施、平成 30 年 6 月から行っていたところで 10 か月間の実績になる。たかとり、大磯幼稚園のいずれも 10 名の定員で行ったところ、10 名ずつ、最終的にはご利用いただいた。ただ、大磯幼稚園に関しては途中で退園、新規入園があったので、今手持ちにないが、延べ 13 名ほどのご利用をいただいたと記憶している。本年度に関しても、平成 30 年度末にアンケートを実施して、まだ本格実施には再度検討が必要という体制作りがあったので、平成 31 年度、令和元年度も引き続き試行実施をしている。現状では 10 名ずつの定員のところ、およそ半分の 5 名ずつほどご利用いただいております、今回、9 月以降の利用に関してもまだ 10 名埋まっていない現状がある。来年度の本格実施に向けてというところで町は考えてはいるが、ここで幼児教育・保育の無償化も 10 月以降始まる関係で、制度的な運用と、保育園ニーズの高まりなども懸念されるところもあり、引き続き本格実施に向け検討はしていくが、本格実施を正式に発表できるかまではまだ調整中である。

事務局) 76 ページ、子育てコンシェルジュ 3 箇所配置については、今、担当がこちらに向かっているのではほど回答させていただきたい。

会 長) 他に何か質問等はないか。

委 員) 資料 2 の 6 番の、4-2 の子育て支援センター、東部について、令和元年度の設置予定は具体的に何月とか、もう決まっているか。

事務局) 今回 9 月議会で設置条例を提案していくかたちになっているので、できれば 11 月には開所していきたいと、準備を進めている。

会 長) 他に何かあるか。担当の方はもう少しでいらっしゃるか。

事務局) もう少しで来るが、後ほど回答させていただく。

会 長) 皆さんよろしければ次に進みたい。

(2) 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン(子ども・子育て支援事業計画)の策定について

《資料説明》

・第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン(子ども・子育て支援事業計画)の策定について

【資料3】

(説明省略)

《質疑応答》

会 長) ただ今のご説明の内容について、ご意見やご質問があるか。

副会長) 色々な数字の推移をご説明していただいたが、実際にこの会議が始まる一番最初の頃は待機児童がゼロに近かった。ところが今、たくさんいるという話を聞いている。実際には外側だけというだけではなく、お子さん、お母さん自身の困り感とか、待機児童の数とか、実際のことを伺いたい。

事務局) 待機児童の考え方などは、公式発表する数値は国の基準に則って発表しなければいけないので、こちらの数字はこの4月に関しては21名となった。昨年サンキッズ国府が開園したため、13名で、結果的には今年度人数的には上がっている。ただ内容的な所は、保育所などの入所の申し込みをされて、希望園と、希望の空いている年齢といったところの組み合わせがなかなかマッチせずに、入所の保留に至った児童は、もう少し人数的にはいらっしやる。ただ、そういったところに対してもなるべく待機にならないように、他の空いている園などをご案内するが、育児休業を延長されてそのままご自宅で保育されている方、また、入所の希望の中の1/3ほど新しく求職のために保育を希望されている方もいらっしやるので、結果的に入所が決まらなかったためにご自宅での保育を継続されるという結果がある。また、一時保育を利用されながら就労を続けて、空きが出次第入所を決定していく方等、様々いらっしやるので、数字というのは公式で発表せざるを得ないので、実際の施設の中には各年齢、各施設いっぱいに埋まっているかということではない。希望とマッチしないがための待機児童に至っているということも印象としてはある。

会 長) 他に皆さんから質問はあるか。

委 員) 資料4の4ページのところの一番上、大磯町出生率の推移ということで、去年の会議の1回目も町長が毎年増えていますよとおっしゃっていたのをよく覚えているが、平成30年度に急に減っているのがその表からわかって、全国的なのかもしれないが、原因をどういうふうに見ていらっしやるのかお伺いしたい。前年が201人ですごく多いので、来年増えるかもしれないというような、単年こういうふうだから今すぐどうこうということではないと思うのだが、もし何か原因とか見解をお持ちなら教えてほしい。

事務局) 今のご質問は、確かに平成26年から平成29年が微増というかたちで右肩上がりだったのが平成30年で落ちているようなかたちに見える。この表には今入っていないが、平成25年の人口統計で、198名の出生があった。こちらから、169名だと29人出生の数が減っているというようなかたちで、今回、例えば平成29年から30年の出生数が減ったのがすごく大きく減ったのかということ、年間、この5箇年で見ると減ってはいるようだが、やはり人口、人の生まれることなので、年によってこのぐらいの変化が今までもあ

ったと捉えている。ちなみに隣接する二宮町とか平塚市の状況も確認させていただくと、もう右肩下がりということで微減を続けている。特に、また 30 年度は少し減り幅が、平塚市などは大きかったように、県等の統計などからも見て取れた。色々な要因はあるかと思うし、これだという特定には残念ながら繋がらなかったが、大磯町として何か劇的な変化があったというものではないと事務局としては捉えている。

事務局) この出生数に関しては、平成 29 年に本当に久々に 200 人を超えたが、この表を見ていただくと、ずっと 200 より落ちてしまっている。ただ下の未就学の数字を見ていただくと、0 歳から 5 歳児ということで 6 学年が該当することになると、そうすると実は 200 人を超えてくる。これは、私たちのほうでも、子育て支援課ではないが様子を見てみると、どうも出生は、確かに動きはないが、その後大磯町に引っ越してくるという世帯が意外と多く、比較的安定しているということが見えている。出生にこだわりたいところも一つはあるが、ただ、子育てで選ばれる町としては、生まれるだけではなくて、その後に大磯に越してきてくれれば、それはそれで子どもの数がある程度確保できるので、この部分も私たちの中では注目しているところだ。なぜ大磯町を選んで越してきてくれるのかというのが、今、戸籍担当のほうでアンケート等をいただいていて、それで今状況を追っているような状況だが、それがまたわかるようならばこの会議の中でご紹介したいと思っている。

会 長) 他にご質問等あるか。

委 員) 資料 1、23 ページ、17 番の食育、給食の充実について、以前 29 年度に中学校給食が中止になって以降、30 年度に自校に決定して以降、どういう進捗があるのか具体的に知りたい。新しい笑顔かがやきブランのときにもう少し具体的なことを、ここに何か計画の時間的な目標などがあるとよい。すごく気になっている人が多いと思うのでお願いしたい。

事務局) 平成 30 年度まで、学校教育課が所管になるが、まさに自校式の決定まで進めてきた。この後、自校という方向が決定したので、いよいよ自校式の施設を建設することに向けた準備をこの平成 31 年度進めていっているところであると聞いている。具体的には、またこの平成 31 年度の事業の実施計画というかたちで入ってくるものなので、その部分まで十分な情報はちょっと届いていないと思う。今の委員のお話は、これが結局時点でいろいろ変わっていった中で、給食事業につきましては、事業目標が変わってきている部分があるので、事前修正をということだと思う。こちらに書かせていただいた、平成 31 年度こういう目標だというのは、これはもう当初の計画時のところの 5 か年をこういうかたちで進めていくというものが載ってしまっている。今後の計画進行管理という意味で、ご意見としていただきながら、計画の進行管理をどうしていくのかというものを考えさせていただきたいと思う。

委 員) 次期計画のほうにもう少し具体的な時系列というか、時間的な目標とかがあると、具体的に私たち子育て世代はすごく気になる、それによって必要な生活のしかたというがあるので、是非もう少し具体的にあらと嬉しいと思った。

事務局) 私どもの知っている範囲でお話しすると、一応今お話があった通り、両校に自校式の給食施設を設置していくというかたちになっている。その中で、いざものを作るという話だと、基本設計というものがあって、実施設計、それから着工して完成で、その後に本当に運営していく上での準備の期間があるので、聞いている話の中では設計から実際に準備が終わるまでに 4 年間くらいかかるのではないかという話なので、まだ令和 7 年

度の町の予算の中で設計の予算等とおっておりませんので、それをいつ実際にその辺に予算として獲得していくか、またその中で業者さん等が決まってくれば、より、今ご心配いただいているようなスケジュールの話が明確化するのが、だいたい今、話では4年ぐらいかかるのではないかというふうに、情報としては私の中では思っている。

委 員) わかった。

会 長) 他にあるか。

委 員) 資料1にお話が戻っていたので私も言いたいことが1つあるが、54ページの公園と道路の環境整備のところ、町内全ての公園緑地で毎月2回の清掃を実施する、翌日に清掃検査を実施とあるが、東部のほうでいうとなかよし公園とか、結構大きな公園はそういった清掃をしてくれる方をよく見かけるのでその辺はすごく感じる。しかし小さい公園で、具体的には家の近くにある花水公園というところには1つ木で出ているベンチがボロボロに壊れていて、ずっと撤去していないでそのまま放置をされている。それで、うちの娘も上がってちょっと怪我をしたことがある。そういった清掃に関しても、全ての公園をされているかどうかというのが疑問に思ったのと、その公園内にある砂場も、全然、特にネットを張るなどの整備がされているわけではないので、犬や猫の糞とかそういったものがたまに出ていたりするため、砂場で遊べないという事態があって、本当にこういったことをされているのかなと疑問に思って、質問させていただいた。

事務局) 担当が都市計画課というところになるので、申し訳ないが今のご意見をお伝えさせていただく。具体的に伺って担当の方に伝えてご回答できるようにしたい。

会 長) 他にご質問、ご意見等ないか。

委 員) 子どもの貧困対策というところ、子どもの貧困に定義というのがあるのか。それと、その定義に当てはまる子どもはある程度把握しているのかを教えていただきたい。

事務局) 子どもの貧困の定義については、一応、国で一定の数値、パーセントを様々な目標において何パーセントと設定している。例えば、全世帯の子どもの現役大学の進学率が何パーセント、また、生活保護世帯の大学進学率が何パーセントというようなかたちで、そういう貧困状況にある家庭の、例えば進学率がどうなのかとか、様々な指標が出ているが、大磯町で貧困を何パーセントとするというようなものは出していない。県での、子どもの貧困にかかる法律の一部改正に伴う説明会があり、県下でもいろいろな自治体、地域によって様々な実情がある中で、貧困率の定義を自治体の中でどうやって決めていくのかというのが議題としても上がっていた。やはり、地域柄、特性によって指標とするものや考え方があり、また単純に数値化して表すだけで良いのかというようなことも含めて意見が出て、今まだ県下でも様々な意見が出ている状況だ。大磯町の今回の計画においては、数値的な目標値を定めるということにとらわれるのではなく、今行っている、例えば経済的な支援として、就学援助の、経済的に困窮している家庭への学費の補助とか、我々で行っているひとり親世帯の補助制度、そういった経済的な支援や、そういった経済的に支援が必要とされているお子さんをお持ちの、お生まれになったお子さんが学齢期までずっと続いて、生まれた時から学齢期まで途切れなく続いて支援ができるような体制というのが必要だということで、そういうシステムづくりの方を重視して、パーセンテージで示していかないというところを考えている自治体もあるということで、我々もできればそういうような方向で今後進める段階と思っている。また、国の大綱がこの年末に示される予定になっていると聞いている。そういったものも見ながら、先ほ

どの貧困率の考え方なども参考にしていきたい。今後の計画の中ではそういうものも出てくるかもしれないが、今後の対応としていきたいと思っている。

委員) 今のお話だと、自己申告で支援が必要なご家庭がわかるということか。基準が特に定まっていないとおっしゃったので、その場合、この子は助けが必要だというのはどういうふうに判断されるのか。

事務局) 基本的には町のほうで様々な子育てガイドブックとか、子育ての情報ホームページも含めて広くご案内しているので、まずそこで情報を取っていただきたいが、もちろん相談してもらった中で、使っていただけるサービス、受けていただける制度はその都度ご案内していく。ただ、今おっしゃったように、言わなければわからないというかたちにならないようにやっていくというのは、我々が努力していかなければいけない。先に知ってしてもらえて、こういう状況になったら使えるのだということを知っててもらえるような体制整備というのが必要だと思う。

委員) そうすると、やはり何らかのわかりやすい基準があると、うちは当てはまるとかいうことで申し出ることができるのではないか。

事務局) 例えば、今私が例で挙げた就学援助などは学齢期のお子様に対する制度になるが、入学説明会の段階で小学校中学校の町立学校に通っていらっしゃる方に対してご案内している。そのときには、私が該当になるかどうかというのがわかるような資料は一応お渡しするが、それだけではなかなか判断できないという相談も窓口で受けている。あとは、ひとり親家庭の方には、我々のほうの子ども・子育て支援課のほうが実施しているひとり親家庭の助成ということで、ひとり親の助成を受けている方で一定の条件が合えば、入学時に3万円の援助を行うというサービスを提供しているが、それは我々のほうに情報として対象になる人がわかっているので、対象者にご案内してもらっていただけない、ご連絡がない方は、きっとお忙しいのだろうとかいろいろ思いながら、こちらから促し、催促というか、サービスを受けられるというご連絡するなどの対応はしている。

会長) 他に皆さんのほうから何かあるか。

(特になし)

では、先ほどの質問に対してお話しただいてよろしいか。

事務局) 遅れて申し訳ない。先ほどの、資料1の76ページの子育てコンシェルジュの質問について、場所的には、現在建設中の仮称東部子育て支援センター、あと、今ある大磯町子育て支援総合センター、あと、こちらの大磯町役場子育て支援課の窓口の3か所になる。今、建設中の場所を除いた2か所がコンシェルジュを配置しているようなかたちになっている。

会長) よろしいか。

委員) はい。

会長) 他に、全体を通し何かご質問等あるか。

(特になし)

(3) その他

会 長) その他について事務局から何かあるか。

事務局) 以前から、仮称東部子育て支援センターの整備事業についていろいろご意見をいただいていた。まだ途中段階ではあるが、今の進捗状況について簡単にご説明させていただきたい。今、9月中の完成に向けて工事が進んでいる。建物は、前回お話しさせていただいたが、木造平屋の1階建てで、そのうち畳12畳分を含む70.39平米がつどいのひろばというかたちになっている。その他、事務スペース、相談室、玄関ホール、更衣室、子ども用トイレ、倉庫などを備えている。また、外庭と駐車場、駐輪場を設置する予定だ。これから、9月の議会において条例制定を行う予定である。名称についても、今、以前から引き続き使わせていただいている仮称東部子育て支援センターだが、この条例の制定により承認を得ると施設の名称が決定する予定になっている。あと、一応、施設の完成後は備品等が全く揃っていないので、完成の後、備品等を設置して11月1日を開所予定としている。それに向けて今頑張っている。こちらの進捗状況は以上である。

会 長) 他に何かあるか。

(特になし)

それでは、全体のところで何かもう一度確認しておくこと等もなければこれで終わりにしたい。

次回、先ほども話があったが、次回の会議は10月頃に開催予定となっているので、ご都合がなるべく合うようにしてご出席をお願いしたいと思う。

以上をもって第1回大磯町子ども・子育て会議を終了する。長時間にわたりご協力をいただきありがとうございました。

5 閉会

終了